

桜歯 ニュース

2022. 4. 15
VOL.214



日本大学歯学部ホームページ： <https://www.dent.nihon-u.ac.jp/>



令和4年新入生の皆さん

日本大学歯学部 学部長 本田 和也

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さんはコロナ禍の大変厳しい中、本歯学部合格された新入生です。その苦しい経験はきっと、これからの人生に役立つ事になります。歯学部での学生生活が始まる今も感染収束の判断は難しく、講義は遠隔やハイブリット方式、実習は対面形式になります。歯科医師を目指す学生であるとの自覚を持ち、感染リスクを避けて行動してください。

昨年、本学が起こした不祥事により、皆さんは受験を悩まれたかもしれません。保護者の皆様にも、ご心配をおかけしてしまい大変申し訳なく思っております。誠心誠意努力し新しい大学として生まれ変わることをお約束いたします。

日本大学は、明治政府の初代司法大臣を務めた山田顕義伯爵を学祖とし、130年を超える歴史をもつ伝統校であり、自ら考え、自ら学び、自ら新しい道を切り開いていく「自主創造」を教育理念に掲げています。一方歯学部も、平成28年に創立100周年を迎えた伝統のある学部です。歯学部の教育理念は、前身となる東洋歯科医学校を創設した佐藤運雄博士が唱えた「医歯一元論」です。医歯一元論は、歯学を口腔や歯だけにとどめず、全身と関連させて統合的に学ぶということであり、歯学部の教育方針にしっかりと根付いています。これらの教育理念のもと、常に高い志を持ち、何事にも自ら積極的に取り組む姿勢を示し、人間性豊かな歯科医師を目指してください。

(教授 歯科放射線学講座)

新入生の皆さんへ

目的意識を持った学修



学務担当 林 誠

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さんは「歯科医師になる」という目的を持って入学試験を見事突破し、日本大学歯学部に入學されました。そして、今年度から運用開始の最新設備の整った新校舎にて、新たな学生生活が始まりました。残念ながら新型コロナウイルス感染症は収束に至っていないため、ある程度の制限はあります。しかしながら日本大学歯学部は、皆さんが目的を達成できるように最大限のサポートをします。また、感染状況を注視しながら可能な限りコロナ禍前の環境に戻せるように考えていますので、6年間の学修では目的意識を見失わず、夢に向かって一直線に突き進んでください。

(教授 歯科保存学第Ⅱ講座)

自助努力の大切さを考える



学生担当 宮崎 真至

歯学部に入學し、歯科医師を目指した新しい生活が始まりました。これからの学生生活においては、いくつかの関門が待っており、その大きなものとして第4学年における共用試験、そして歯科医師国家試験があげられます。これらの関門を無事通過するためには、普段からの弛みない地道な努力が重要です。そのためにも、これからの6年間をどのように過ごすかが大切となり、自助努力が求められることとなります。その過程で、多くの人との出会うとともに勉学を通してお互いに助け合う友人を得ることも重要なものとなります。多くの人との交わりの中から、他人の心を慮るということの意味を理解し、豊かな人間性を備えた医療人になることを目標としてください。また、学部では、皆さんを支援する様々なプログラムが用意されており、それらを有効に活用してください。

(教授 歯科保存学第Ⅰ講座)

歯科界をになう歯科医師をめざし

日本大学歯学部同窓会会長 小幡 純



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。今後の歯科界をになう歯科医師をめざして入学したことでしょ。質の高さが求められる現在の医療においては確固たる知識と技量を取得する事が必要です。この2年間は新型コロナウイルス感染症禍で今までとは違う環境での学習でした。今年もこれからの感染状況に於いてどのような学習体制になるかわかりません。しかし、歯科医学を目指す皆さんにとって今後の医療に役立つ特別な経験となることでしょう。

日本大学は総合大学です。他の歯科大学と異なり特に御茶ノ水エリアは、医・理・歯の各学部が隣接していますので、連携をとりながら様々な分野で知識を得ることが可能です。この恵まれた環境で知識の習得をしてください。皆さんは入学時から100年の歴史を持ち、約9000人の会員がいる同窓会の準会員になります。同窓会の会員は日本歯科医師会を始め全国で活躍し、地域医療にも多大なる貢献をしています。そして同窓会は会員を生涯バックアップしていきます。

自分との対話

後援会会長 横江 順



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。これまでのご努力に敬意を表すとともに、愛情をもって支えてこられたご家族、関係する方々に心よりお祝い申し上げます。

皆さんは、これから新しい人生のステージに向けて出発することになります。これは、皆さんの「自己発見」と「自己表現」に向けての本格的な旅立ちになると思います。人や書物との新しい出会いを通して、自分の能力や適性を発見する中で、自らの若々しい精神と感性を解放し、恐れずに新しい環境や状況に向かっていきましょう。また、様々な場面で文章を作る機会が訪れます。その過程で自分の思考や感情を繰り返し検証し、認知バイアスからも解放し、あるべき本来の自己を確認し作り上げていくプロセスを丁寧に繰り返し行ってみてください。

学生会より



学生会会長 福崎 愛

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。まずは大変な受験勉強お疲れ様でした。

最後の学生生活、勉強も勉強以外も一生懸命取り組み、目一杯楽しんでください。大変なこともきっとあると思いますが、共に過ごす仲間と支え合いながら過ごす時間は一生の宝物です。今しかできないことにもたくさん挑戦して、先輩や先生方との時間も大切にしたいです。

そして素敵な歯科医師となるために、日々の努力はもちろんです。この大学の環境を利用していただき。今年度からは新校舎も使用できるようになり、日常的に院内実習生や先生方など見かける機会も多いと思います。理想の将来の自分を思い描いて、目標に向けて一緒に頑張りましょう。(第6学年)

クラブ協議会より

クラブ協議会会長 平田 隼輝



新入生の皆さん、御入学おめでとうございます。

皆さんが描く大学生活といえば、たくさん勉強をしたり、アルバイトをしたり…といった事が浮かぶと思いますが、その中の1つに部活動があるかと思います。本学では勉強に励むだけでなく、多種

類あるクラブに自らが選んで入部することができます。クラブに入部する事で、同学のチームメイトである横の繋がりが、先輩後輩・OBOGの先生方等、縦の繋がりの関係が得られます。これは、大学生活を送る中で大変重要で、必ず何かの役に立つはず。勿論、入部は強制ではなく、6年間所属する部活なので、じっくりと考えてみて下さい。

我々クラブ協議会はそんな皆さんをサポートする組織ですので、困った際は是非頼って下さい。宜しくお願いします。

(第5学年)

事務局の紹介

【教務課】 入学時の学生証の発行から歯科医師国家試験受験に関する手続きまで、授業や試験などの勉学に関する事務手続きを扱っています。勉学上必要な事項は『学部要覧』や『授業計画(シラバス)』に記載してありますので、これらによく目を通してください。また、授業や試験に関する連絡は掲示やNU-Mailをもって行います。そのため、常にNU-Mail等を確認する習慣を身につけてください。

【学生課】 快適で充実した学生生活を送るために様々な支援を行っています。窓口では通学証明書及び学割の発行、忌引きや病気などによる欠席届や住所変更届などの諸届けの扱い、各種奨学金の手続きなどを行っています。また、クラス懇親会に対する助成手続、学生会やクラブ活動に関する相談や助言なども行っています。さらに、球技大会、桜歯祭、NU祭、日本大学体育大会、全日本歯科学生総合体育大会(歯学体)などの学生行事にも携わっています。

【学生支援室】 皆さんが学生生活を過ごしていく上での様々な問題について、学生の立場に立って相談に応じています。「こんなことを相談するのは恥ずかしい」などと気がねせず、気軽に訪問してください。6年間の学生生活では、辛いこと、困ったこと、誰かに話を聞いて欲しいこと、様々なことがあると思います。他人にとっては些細に思えることでも、本人にとっては、とても大事なこともあります。相談員は、インテーカーの資格のある教員(月曜日昼休み)に加え、日本大学本部学生支援センターより、臨床心理士が配置されています(火~金曜日)。守秘義務のある専門家が、皆さんの立場になって話を聞きますのでプライバシーは厳守されます。他者に話をすることで、気持ちが整理されたり、新たな視点に気付くことがあるかもしれません。学生生活に何らかの困難を感じた時、選択肢の一つとしてください。

【保健室】 学生と教職員の皆さんが、大学生活や職場において心身共に健康で充実した時間が過ごせるよう、学校医兼産業医(月曜日午後)、精神科医(第2・4月曜日午後)、看護師(平日、土曜不定期)が、健康の保持増進のための支援をしています。学生の皆さんは、日頃より自身の体調や健康状態に関心を持ち、健康管理に心がけていただくと共に、生活の中で健康に関する悩みや相談が生じた場合には、いつでも保健室(3号館1階)に相談をしてください。

【図書館】 学修、研究を支援するため、学術情報や学修スペースを提供します。生命科学分野の図書、雑誌を中心に収集、整理、提供をしています。電子ブック、検索データベースなどのオンライン資料も充実しており、学外からの利用が可能です。ラーニングコモンズ、グループスタディルームを設置し、図書館資料の他、インターネット、ホワイトボード等を利用した自由な学びをサポートします。また、利用者と資料を結ぶため、図書館員による相談サービスを提供しています。図書館ウェブサイトから各種の申込みをオンラインで行うことが可能です。

クラス主任・担任メッセージ

第一学年

主任	山岡 大	教授	基礎自然科学分野 (物理学)
担任	佐藤 紀子	准教授	健康科学分野
担任	渡辺 孝康	専任講師	基礎自然科学分野 (化学)
担任	好士 亮介	専任講師	医療人間科学分野
担任	大原 絹代	助教	歯科保存学第Ⅱ講座

山岡主任：新型コロナウイルス感染症との闘いを乗り越えてのご入学おめでとうございます。皆さんは、このコロナ禍で強い精神力が養われたと思います。これからは6年後の国家試験を勝ち取るための学修で、その精神力にさらに磨きをかけて頑張ってください。我々担任一同は、その目的に進む皆さんを全力でサポートします。

佐藤担任：日々の生活の中で「面白い！」と感じる体験を重ねましょう。大学での授業、読書や映画・音楽鑑賞、スポーツ、ボランティア活動…興味をそそられ、心が引かれることを見つけ、チャレンジしましょう！コロナ禍の中でも、皆さんの目の前が明るくなるはずですよ。

渡辺担任：ご入学おめでとうございます。6年間かけて歯科医学を修めるにあたり、不安もあると思いますが、まずは高校で学んだ内容を着実に復習しておくことが求められます。時には後ろに戻る勇気を忘れず、確かな学力をつけていけるよう、日々の前進を心がけましょう。

好士担任：皆さんは歯科医学を学修し、歯科医師として活躍するための第一歩を踏み出しました。6年間は長いようで実際にはあっという間に過ぎていきます。様々なことに視点を向け、チャレンジし、実りある学生生活にしましょう。よろしくお願いいたします。

大原担任：新入生の皆さん、1年生



の担任を務めます歯科保存学第Ⅱ講座の大原です。これから人生の基盤となる新しい生活が始まります。自分を見失わず、歯科医師への第一歩を踏み出せるように頑張りましょう。しっかりサポートしていきますので、よろしくお願いいたします。

第二学年

主任	野間 昇	教授	口腔内科学講座
担任	三澤 麻衣子	専任講師	医療人間科学分野
担任	角田 麻里子	助教	病理学講座
担任	西尾 健介	助教	歯科補綴学第Ⅰ講座

野間主任：本年度からクラス主任を務めます野間です。2学年は歯科医学教育の中では根幹をなす基礎医学系科目が多く重要な期間であると言えます。また優れた歯科医師となるため、人体構造とそれに関連した基本的な機能を学修することになります。学ぶことは成長すること。共に学んで、共に成長し、実りのある1年にしましょう。

三澤担任：第2学年は人体の構造機能を理解するなど、医療系らしい授業となります。修得した知識や技能を将来どのように役立たせようか考えてみましょう。学ぶことを前向きにとらえられれば、きっと充実した1年間になることと思います。1年間がんばっていきましょう。

角田担任：2年生は授業・実習を含めて、歯科医師に向けて必要とされる知識を学ぶ機会が増えていきます。どれも大事な皆さんの礎となるものですから、頑張って下さい。また、友人同士のつながりが昨年度よりも増やせていけるようにサポートしていけたらと思います。

西尾担任：第2学年では、ついに専門的な授業や実習が始まります。戸惑うことも少なくないと思います。歯科医師になるために、去年以上に気合いを入れて頑張ってください。今年もクラス担任としてサポートしていきますので、何かあれば遠慮せず相談して下さい。

第三学年

主任	浅野 正岳	教授	病理学講座
担任	陸田 明智	准教授	歯科保存学第Ⅰ講座
担任	関野 麗子	助教	歯科麻酔学講座
担任	安田 裕康	助教	歯科補綴学第Ⅱ講座

浅野主任：進級おめでとうございます。病理の浅野です。今年は、講義や実習で皆さんと接することとなり、一人一人の顔がより鮮明になることと思います。コロナ禍で、リモート講義が中心となるなか、難関の第2学年を乗り切ったのは実に立派なことだと思います。この勢いを維持し、「為せば成る」の精神で、一杯頑張ってください。

陸田担任：いよいよ臨床系の授業や実習が始まり、実習は患者さんを想定したものとなってきます。コロナ禍の学生だったからといって、患者さんは皆さんの評価を甘くしてくれるわけではありません。将来の歯科医師像を思い描きながら、自覚をもって学修に励んでください。

関野担任：新3年生のみなさん、進級おめでとうございます

ます。コロナ禍に入学しオンライン授業が当たり前になってしまいましたが、部活動も動きだし、少しずつですが明るい兆しが見え始めました。気持ちを新たに中堅学年として充実した1年を送ってほしいと願っています。

安田担任：みなさん進級おめでとうございます。3年生からは歯科臨床に関わる履修科目が始まる学年です。これから歯科医師になるために大切な学年になってきます。今までの学年で学修してきた基礎系の知識と繋がりを持って勉強するように頑張ってください。

第四学年

主任	武市 収	教 授	歯科保存学第Ⅱ講座
担任	大山 哲生	専任講師	歯科補綴学第Ⅱ講座
担任	人見 涼露	専任講師	生理学講座
担任	尾崎 愛美	助 教	衛生学講座

武市主任：歯科の臨床系科目について、集中的に学修する学年となります。今後、歯科医師として治療を行う上での礎となりますので、見聞きしたものの全てが将来自分の役に立ちます。年が明けると、歯科医師になるための最初のハードルである共用試験（OSCE、CBT）が実施されます。今から計画的に勉強を行って、試験の準備をしていきましょう。

大山担任：進級おめでとうございます。今年度、皆さんが挑戦する共用試験の結果は、歯科医師国家試験結果と正の相関関係があり、研修医としての採用試験の基礎データともなります。だからといって学生生活を楽しむことも忘れずに、実り多き一年を過ごしてください。

人見担任：とうとう4年生ですね。年度末にある共用試験（CBTやOSCE）をクリアして5年生に進級すると臨床実習が始まります。その準備段階として4年生は非常に重要な学年です。不安な毎日が続きますが、体調を崩さず有意義な一年間になるよう支援いたします。

尾崎担任：ご進級おめでとうございます。第4学年は、共用試験（CBT、OSCE）が控えています。自分なりの勉強スタイルやストレス発散方法を早く見つけ、有意義な一年を過ごしてください。担任として、皆さんが実り多き学生生活を送れるようサポートしていきます。

第五学年

主任	本吉 満	教 授	歯科矯正学講座
担任	田邊奈津子	准教授	生化学講座
担任	篠塚 啓二	専任講師	口腔外科学第Ⅰ講座
担任	白玉 博司	助 教	口腔外科学第Ⅱ講座

本吉主任：いよいよ臨床実習が始まります。そして後期には臨床実習後共用試験の臨床実地試験と一斉技能試験が行われます。いずれも練習の時間が十分に設けられますのでしっかり予習をして挑めば必ず合格できます。臨床実習では、患者さんだけでなく、担当診療医とのコミュニケーションも重要です。分からないことは躊躇せず担当医や我々担任に聞いてください。

田邊担任：進級おめでとうございます。皆さんには、これから臨床実習を通じて、これまで学んだことの理解をより深めてもらいたいと思っています。また担任として、今年度もみなさんが健やかに学生生活を過ごせるようにサポートさせていただきます。

篠塚担任：いよいよ臨床実習が始まります。今までの4年間で修得した知識と技術をしっかり確認することが大切です。実際の患者さんに触れ、自分の歯科医師としてのあるべき姿も見えてくると思います。一日一日を大切に、実りある一年間になるよう過ごしましょう。

白玉担任：第5学年は診療参加型臨床実習、歯科学統合演習Ⅴが主体となり、学年末には共用試験（CPX、CSX）の受験も控えています。これまで修得した知識を練成し、歯科臨床の実際と結びつけ、2年後に控える歯科医師国家試験受験に向けて頑張ってください。

第六学年

主任	今井 健一	教 授	感染症免疫学講座
担任	山崎 洋介	准教授	解剖学第Ⅱ講座
担任	納村 泰弘	准教授	歯科矯正学講座
担任	伊藤 智加	専任講師	歯科補綴学第Ⅰ講座
担任	竹内 義真	助 教	総合歯科学分野

今井主任：いよいよ最終学年です。国家試験も迫り甘えは許されません。自らをどう律するかで皆さんの来年が決まります。どのような歯科医師になりたいかもイメージして下さい。5年前、軽井沢研修で話をしたように、若さは特権です。夢を抱き目標を1つひとつクリアし、輝かしい未来を切り拓いて下さい！

山崎担任：国試の為の勉強然り、万事突き詰めれば、己との闘いに帰するといえるだろう。辯舌をもって人を騙すことはできても、己を欺くことはできない。自分を律して、貫くことはとても難しい。計画や目標があるのは勿論、精神や哲学を持って事に臨んでほしい。

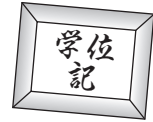
納村担任：最終学年として、卒業、国家試験へ立ち向かっていく学年です。どのように立ち向かっていくかは、皆さんそれぞれであると思います。しかしどんな困難でも、やまない雨はありません。明けぬ夜はありません。有意義な1年になることを祈っております。

伊藤担任：新第6学年の皆様、進級、おめでとうございます。いよいよ最終学年です。最終目標に向かってスタートは切られています。健康管理も含めて自身との戦いでもあるこの1年、強い意志を持って「前進あるのみ！」。1年後に全員が笑顔でいることを信じています。

竹内担任：本年度から皆様のクラス担任を務めさせていただきます。歯科医師臨床研修の担当窓口です。施設のマッチングをはじめ統合試験や歯科医師国家試験など大変な1年になると思いますが、健康に留意し、悔いの残らない学生生活を送ってください。



119名に学士(歯学)の学位記を伝達



3月25日、本学部本館創設百周年記念講堂において、学位記伝達が行われました。本田歯学部長から学位記が伝達され、併せて学長賞、優等賞、学部長賞等の授与が行われました。同日、大学院歯学研究科修了者37名にも本学部本館第3会議室にて、博士(歯学)の学位記が伝達されました。



学長賞 西村優香さんに学長賞

日本大学は各学部において、在学中の学業成績が最も優れていた者に学長賞を授与しています。本年度の受賞の栄誉に輝いたのは西村優香さんでした。

西村優香：この度は輝かしい学長賞を頂き、誠に光栄に存じます。これも偏に6年間ご指導ご鞭撻いただきました先生方、支えて下さった皆さま方の賜物と深く感謝申し上げます。勉学、クラブや委員会など様々な活動に精を出し充実した学生生活を送ることができました。仲間と共に切磋琢磨してきた6年間は私の大きな糧になりました。日本大学で学んできたことを生かして、自主創造を胸に今後とも励励して参ります。



の6年間は長くもあり、短くもあり、自分自身が大きく成長できた時間でした。ここで学んだ事を基に、今後は歯科医師として社会に貢献できるよう日々精進して参ります。

水村敦：この度はこのような名誉ある賞を頂戴し、誠に光栄に存じます。これも偏に6年間御指導御鞭撻賜りました先生方のお陰と存じ厚く御礼申し上げます。世界的な感染症流行の未曾有の事態に、長くも短く感じる6年間でした。その中、学修環境を整えて下さった大学関係者の皆様、支えてくれた家族に深謝致します。今後もこの賞に恥じぬよう研鑽を積み、社会に貢献できる歯科医師であるべく精進して参ります。



優等賞 令和3年度卒業生3名に優等賞

学業成績が学長賞に準ずる者に授与されるのが優等賞です。本年度は篠原理恵さん、比嘉真実さん、水村敦さんの3名が受賞されました。

篠原理恵：この度は優等賞を頂き、大変嬉しく光栄に思います。このような素晴らしい賞を頂きましたのも、熱心にご指導頂きました先生方のお陰です。また、編入生であるにも関わらず優しく迎え入れてくれた同級生、先輩後輩、家族、支えてくれた全ての皆様に感謝の気持ちで一杯です。この場をお借りして心より御礼申し上げます。本学で学んだ知識と素敵な思い出を胸に、今後も精進して参ります。



比嘉真実：この度は、このような素晴らしい賞を頂くことができ、大変光栄であると同時に嬉しく思います。先生方、友人、家族、そして今まで携わって頂いた多くの方々のお陰であり、深く感謝しております。今振り返ると、こ



学部長賞 学部長賞を11名が受賞

優等賞に準じた功績を修めた者に授与される部科校長賞には、学業部門、学術・文化部門、体育部門、善行部門、その他があります。本年度は、学業部門：津村円華さん、手塚悠さん、中島拓紀さん、中野祥さん、山口裕史さん、その他：尾崎恵悟さん、西川昂佑さん、西原佑哉さん、峯村祐貴さん、武藤玲さん、山由起さんの11名が受賞されました。



歯学部同窓会会長賞を7名が受賞

人物優秀で、学業・体育などの部門で優秀な成績を修め本学部の名誉を高揚した者、ならびに学生生活活動の推進に著しく貢献し、本学部の発展に功績が認められた者に授与される同窓会会長賞を、相川慶郎さん、小川将史さん、手塚悠さん、松永彩さん、道下詩織さん、山口裕史さん、山口良輝さんの7名が受賞されました。



津村円華



手塚 悠



中島拓紀



中野 祥



山口裕史



尾崎恵悟



西川昂佑



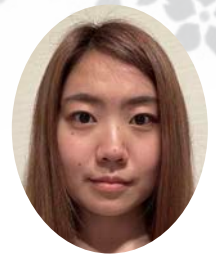
西原佑哉



峯村祐貴



武藤 玲



山 由起



相川慶郎



小川将史



松永 彩



道下詩織



山口良輝

卒業に際して

卒業生代表 第6学年 山口 裕史

長くも短くも感じられた6年間の学生生活もいよいよ終わりを迎え、卒業となりました。この6年間は、入学当時期待していた以上に学業や研究など多岐にわたって知識や経験を積む事が出来ました。そしてこのコロナ禍では、後援会や同窓会の皆様、学部長をはじめとする教職員の皆様のひとつかたならぬご尽力のおかげで、不便を感じるどころか、より一層整った環境で勉強に励む事が出来ました。深く御礼申し上げます。おかげさまでこの学年は困難を乗り越え、一丸となって国家試験に臨む事ができたと感じています。皆様から頂いた御恩は、今度は私達

が歯学部OB・OGとして後輩たちに大切に繋いでいき、今年度をもって完成した歯学部新校舎・付属歯科病院とともに、さらなる日本大学歯学部の発展に貢献したいと思います。



日本大学歯学部
創設100周年記念事業
日本大学歯学部本館竣工

日本大学歯学部は、平成28年4月15日に創設100周年という大きな節目を迎えました。

当該記念事業の一環として、本館は、「教育・研究・臨床の融合」を図る新校舎・新歯科病院を建設するというコンセプトの下で、Ⅰ期工事エリアにおいて歯科病院が平成30年度に完成、Ⅱ期工事エリアにおいて講義室及び図書館等が令和3年度に完成し、令和4年4月1日から本格稼働しました。

新校舎棟は、2階と3階に165人収容の講義室が配置され、1年生から6年生までの全ての学生が新しい講義室を利用します。4階は、実習室を配置し、5階から7階までは、基礎系の講座ラボと材料・組織系・培養系・動物系の実験を行う共用ラボを配置します。1階と地下1階には、グループスタディルームや共用試験（CBT）の実施も可能なラーニングコモンス型の図書館が、また、地下1階には憩いの場として、ラウンジが配置されました。



歯学部本館正面入口



付属歯科病院正面入口

新図書館開館にあたって

本年4月1日から本館Ⅱ期棟に「日本大学図書館歯学部分館」が、学生と教職員の学習や研究を強力にサポートするために最新の設備を備えて開館しました。

今まで図書館をあまり利用しなかった人、またディスカッションしながら学習できるスペースがなくて困っていたという人は、是非ともリニューアルした新図書館を活用してください。

①使いやすい「書架」と「閲覧室」

1階には、歯学系・医学系をはじめとする豊富な蔵書を収容した開架式の書架を設置しました。旧図書館では、解剖学や生理学などの基礎医学系図書を、口腔解剖学や口腔生理学などの基礎歯学系図書とは別の場所に配置していましたが、新図書館では隣に並ぶように工夫しました。

地下1階には、広くて明るい雰囲気のある閲覧室を設置しました。従来の木製机から軽快で学習にも使いやすいデスクにリニューアルしました。読書はもちろん、静かな環境で学習したい人には最適な閲覧室です。



図書館閲覧室

②自由に学べる「ラーニングcommons」

新たに可動式のデスクと椅子、またホワイトボードも設置し、リラックスした雰囲気ですぐ読書や学習が楽しめるラーニングcommonsを1階に設置しました。ラーニングcommonsは1名から最大10名まで利用できます。

使用したいときは、当日1階の図書カウンターで申し込みできます。3時間までの時間制ですが、当日の利用予約がない場合は、延長も可能です。もし満席の場合は、カウンターまで気軽にお申し出ください。



③仲間との学びに「グループスタディールーム」

地下1階には、ディスカッションなどの複数人数での学習に利用できるグループスタディールームを7ルーム新設しました。各室の仕切り壁は、直接、文字が書けるホワイトボード仕様になっています。1ルームは、3名以上から最大8名まで利用できます。

グループスタディールームは2時間までの時間制ですが、その後に予約がなければ、さらに2時間までの延長が可能ですので、積極的に活用してください。

使用にあたっては、図書館ホームページにあるMyOPACの「グループスタディールーム予約システム」を使って、前日からの予約が可能です。



④スムーズな入館、貸出システム

新図書館では、学生は学生証、教職員は教職員証によって入退館から資料の貸出まで可能になりました。学生証あるいは教職員証の無い方には、従来通り図書館利用カードを発行します。利用条件については、図書館ホームページで確認するか、図書カウンター (de.lib@nihon-u.ac.jp) までお問い合わせください。また、最新版リーフレット「図書館利用案内」も配布中です。

なお、新型コロナウイルス感染対策の為、図書館を利用する際は、マスクを着用して、十分に間隔をあけて着席してください。

また、ラーニングcommonsやグループスタディールームの利用人数等を通常時の設定より制限する場合がありますので、ご理解の上ご利用ください。



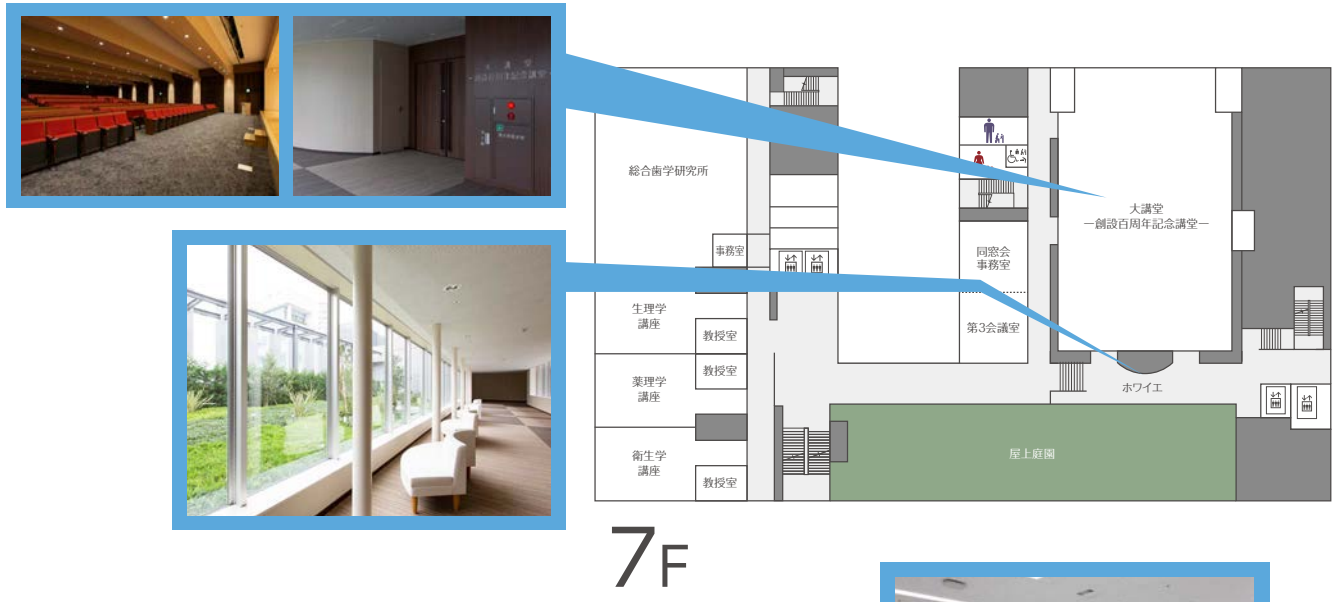
図書館ホームページ



<https://www.dent.nihon-u.ac.jp/library/>

本館平面図

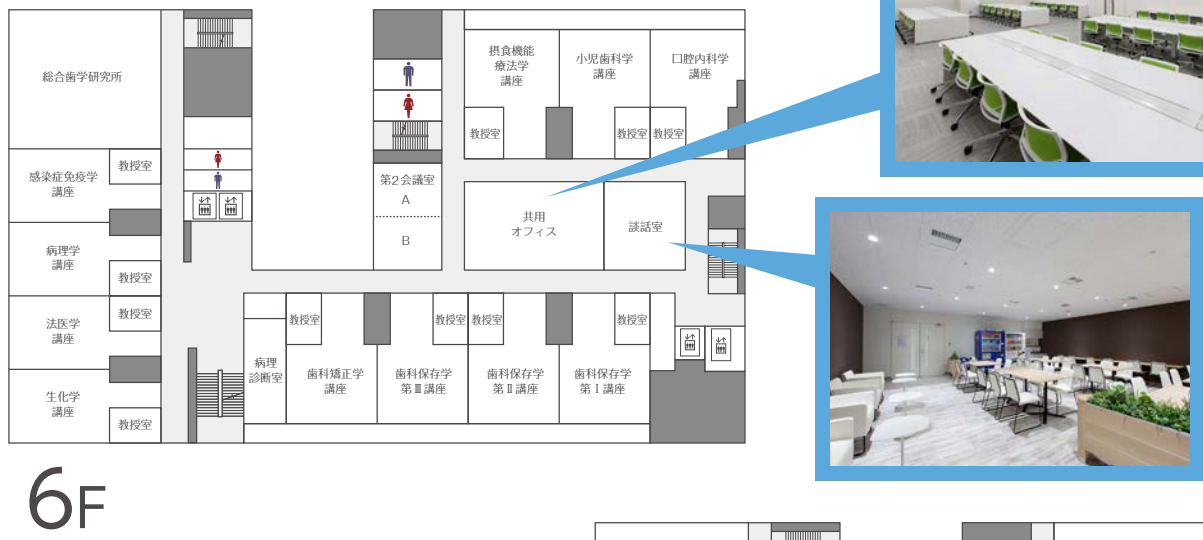
表紙の写真は本館の竣工写真です。令和4年4月1日から使用を開始している各階用途をご紹介します。



7F

7F floor plan includes: 総合歯学研究所, 生理学講座, 薬理学講座, 衛生学講座, 大講堂 (創設百周年記念講堂), 同窓会事務室, 第3会議室, ホワイエ, 屋上庭園, 事務室, 教授室.

Photos show: 1. A large lecture hall with red seats. 2. A modern hallway with large windows and white armchairs. 3. A large lecture hall with green chairs and white tables.



6F

6F floor plan includes: 総合歯学研究所, 感染症免疫学講座, 病理学講座, 法医学講座, 生化学講座, 歯科矯正学講座, 歯科保存学第2講座, 歯科保存学第1講座, 共用オフィス, 談話室, 第2会議室 A/B, 歯科補綴学第3講座, 歯科補綴学第2講座, 歯科補綴学第1講座, 女子ロッカー室, 男子ロッカー室, 解剖学第1講座, 解剖学第2講座, 歯科理工学講座, 歯科放射線学講座, 歯科麻酔学講座, 口腔外科学第2講座, 口腔外科学第1講座.

Photos show: 1. A meeting room with long white tables and green chairs. 2. A lounge area with white armchairs and a coffee table.



5F

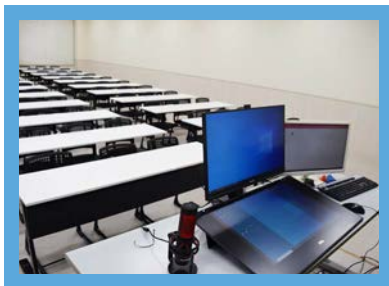
5F floor plan includes: 総合歯学研究所, 解剖学第1講座, 解剖学第2講座, 歯科理工学講座, 歯科補綴学第3講座, 歯科補綴学第2講座, 歯科補綴学第1講座, 女子ロッカー室, 男子ロッカー室, 歯科放射線学講座, 歯科麻酔学講座, 口腔外科学第2講座, 口腔外科学第1講座.



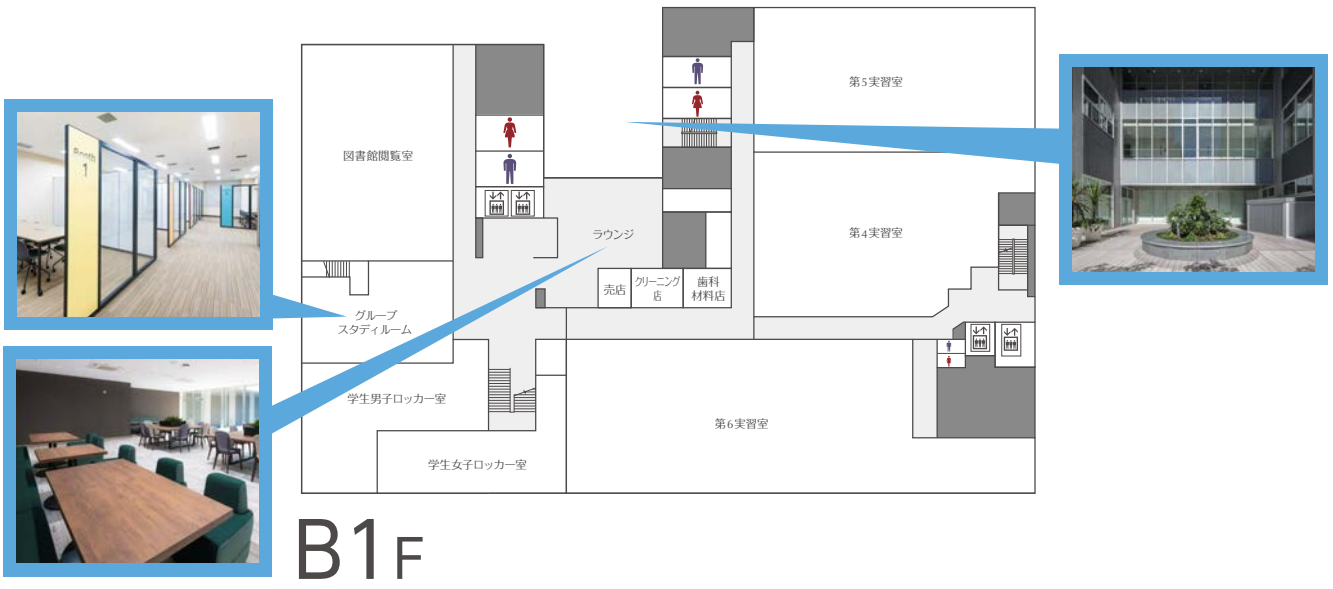
4F



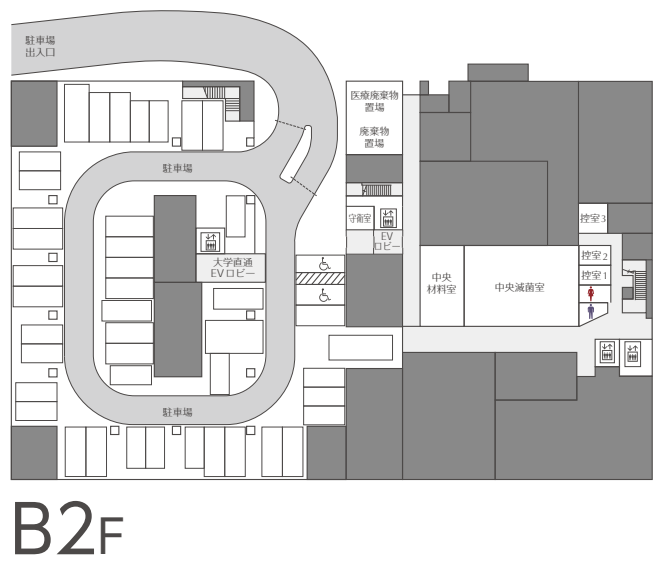
3F



2F



- 建築概要**
- 主要用途 教育研究施設及び歯科病院
 - 敷地面積 4,801.22㎡
 - 建築面積 3,169.54㎡
 - 延床面積 26,179.43㎡
 - 階数 地下2階，地上7階，塔屋1階
 - 高さ 47.90 m
 - 構造 鉄骨造（一部鉄筋コンクリート造）
 - 設計管理 日本大学本部管財部
 - 施工 清水建設株式会社
株式会社関電工
東洋熱工業株式会社



新教授 紹介

自主創造の精神に 基づいて!!



岡 俊一

令和3年10月1日付けで日本大学歯学部歯科麻酔学講座主任教授に就任いたしました。歯科麻酔学講座が設立されて、34年になろうとしています。初の本学部出身、初の歯科医師出身教授になります。現在、

医局員は20名弱、約半数が他大学出身の先生で構成されています。

本学歯学部は、創設者である佐藤運雄博士が掲げた「医学的歯学」の教育理念に基づいて創立されています。歯学を口腔だけではなく、常に全身と関連させて学ぶという理念です。歯科麻酔学は、常に医学的観点から歯学をみる、まさに「医学的歯学」を代表する学問になります。

私の研究テーマは、歯科用局所麻酔薬から始まり、痛み、高齢者の歯科治療時のストレス反応など多岐にわたります。最近では、老化に関連する時計遺伝子を用いたマクロファージ、オートファジーの研究も行っています。基礎研究でも「bench to clinic」、つまり臨床に役立つなくては意味がありません。若い先生に研究する喜びを体現させ、多くの研究者を育てたいと思っています。

歯科麻酔科医の努めは、患者が安心して治療を受けられること、また患者の安全を守ることにあると認識しています。このことを肝に銘じ、歯科病院の安全に貢献して参ります。また先人が築かれた従来の伝統的手法を踏襲しつつ、新技術、新薬を積極的に取り入れていきます。麻酔薬、モニタ類の開発もあり、静脈内鎮静法、全身麻酔法の手技、考え方の進化は目覚ましいものがあります。進化し続ける歯科麻酔を広く皆様にお伝えしたいと考えています。

日本大学の教育理念である「自主創造」は、「自ら学ぶ」、「自ら考える」および「自ら道をひらく」から構成されています。これらの理念を若い先生達と共有し、咀嚼しながら、歯科麻酔学の専門家として、教育・臨床・研究をより充実させ、日本大学歯学部の発展のために尽力する所存です。どうか皆様の温かいご支援をよろしく願います。(教授 歯科麻酔学講座)

【略 歴】

昭和61年日本大学歯学部卒業。平成2年東京医科歯科大学大学院歯学研究科修了。平成4年日本大学助手。平成6年日本大学海外派遣研究員(長期)(ワシントン大学医学部、米国)。平成13年日本大学講師(専任扱)。平成19年日本大学講師。平成23年日本大学准教授。令和3年日本大学教授。博士(歯学)61歳。

新教授 紹介

基礎を大切に



萩原 芳幸

超高齢社会における歯科医学の役割は口腔機能の維持・向上を図り、患者の生活の質と健康寿命の延伸に寄与することです。その実践には口腔のみならず全身を診る、まさに「医学的歯学」「全人的医療」

が求められます。これを踏まえ現在の歯学部における卒前・卒後の歯学教育では、国民の多様かつ高度な保健ニーズに応え、良質な医療サービスを提供できる臨床医や先端的な研究の推進に寄与する研究者の育成が目的となります。

私は卒業以来一貫して歯科補綴学に身を置いて参りました。その間、デジタル化により技工技術や材料の刷新はあったものの、基本的な補綴手技や治療概念は学生時代に学んだことと大差はありません。現在歯科界において脚光を浴びているインプラントや審美歯科等も、例外なく口腔外科学・歯科補綴学・歯周治療学などの基礎技術の上に成り立っています。この意味するところは、歯学教育の普遍性と治療基礎(技術)力の重要性です。

現在の歯科補綴学は口腔インプラントの臨床応用拡大により、総義歯補綴、部分床義歯補綴、冠橋義歯補綴という従来の枠組で捉えることが困難になっています。加えて、歯科疾病構造の変化や超高齢化・有病率増加の影響で、他分野との横断的かつ有機的な結びつきがますます重要になっています。このように歯科を取り巻く環境や歯科治療のトレンドが大きく変化している時代だからこそ、歯科医師には国民の負託に応え得る十分な専門知識と確かな基礎技術力が必要であると確信しています。

私の歯科医師ならびに教員としての基本姿勢を、相田みつを氏の『花を支える枝 枝を支える幹 幹を支える根 根はみえねんだなあ』という言葉が述懐しています。地味で目には見えずとも基礎力の根をしっかりと大地に張らせ、その上で先端的な技術修得と研究活動の花を咲かせる教育・指導の実践により、日本大学歯学部の発展に尽力したいと思います。(教授 歯科補綴学第Ⅱ講座)

【略 歴】

昭和60年日本大学歯学部卒業。平成元年日本大学大学院歯学研究科修了。日本大学助手、日本大学長期海外派遣研究員(オハイオ州立大学歯学部、米国)、専任講師、准教授を経て、令和4年4月本学教授。歯学博士。62歳。

新教授

紹介 人との出会いは財産



小峰 太

令和4年4月1日付けで、歯科補綴学第Ⅲ講座の主任教授に就任いたしました。皆様方にこの場をお借りしてご挨拶を申し上げます。

まず、担当する分野の教育内容の充実を図りたいと考えています。歯科医師国家試験に合格できるための知識、能力を、学生が習得できるよう努めます。また、学力の向上はもちろんのこと、歯科医師として広い視野を持ち、人間性豊かな歯科医師を養成するために、基礎実習や院内実習等で、当講座教員一丸となって教育を行っていきたくと考えています。

2002年から2年間の海外出張の機会を得、フライブルグ大学歯学部補綴学講座(ドイツ)で研究、臨床に従事する好機をいただきました。主任教授(Strub教授)から、歯科用CAD/CAM技術に関する内容、特にオールセラミック材料に関する研究のテーマが与えられました。当時は、今では歯科補綴分野では欠かすことのできない材料になったジルコニアの臨床応用は始まったばかりでしたが、ジルコニアに関する研究を行うことができました。この時の経験が、現在までの研究の礎になっています。また、Strub教授のご配慮によって、2年間ドイツでの診療行為を国から許可していただき、他の歯科医師と同様に歯科診療を行うことができました。これは私にとって、歯科臨床に対する考え方の大きな転機でした。さらに、海外出張において、数多くの素晴らしい先生方に出会い、現在でも私の大切な財産となっています。

海外出張から帰国後は、ドイツでの研究内容を本学でも構築できるように努め、研究活動を行ってまいりました。また、今年3月末で退任された松村英雄教授のご指導のもと、接着等に関する研究にも従事しております。これまでに20名弱の大学院生の学位論文指導をしてまいりましたが、各先生との仕事も非常に重要な財産となっています。

これからも人との出会いを大切に、講座構成員と協力、連携を図り、円滑な講座運営を行い、さらには日本大学歯学部および日本大学の発展に貢献できるよう尽力して参る所存です。(教授 歯科補綴学第Ⅲ講座)

【略歴】

平成3年日本大学歯学部卒業。平成7年日本大学大学院歯学研究科修了。日本大学助手、日本大学海外派遣研究員(フライブルグ大学歯学部、ドイツ)、助教、専任講師、准教授を経て、令和4年4月本学教授。博士(歯学)。55歳。

新教授

紹介 口腔内科学という新しい分野への挑戦



野間 昇

口腔内科学講座は伝統校である日本大学歯学部において初めて誕生する講座です。私は、令和4年4月より口腔内科学講座主任教授に就任することになりました。「口腔内科学」といいますと聞きなれない

学問だと思いますが、「口腔を通して全身状態を診察し、全人的視野で口腔疾患の管理にあたる」分野だと認識しています。口腔内科的疾患に適切に対応するためには粘膜疾患、自己免疫疾患、口腔乾燥、味覚障害を有する患者の診方や口腔顔面痛学を含む医学的知識も要求されます。

近年、欧米において口腔顔面痛・口腔内科学は歯周病学、歯内療法学、補綴学、口腔外科学などと並んで歯科医学における新しい分野として認可されました。この分野の専門医を取得していれば全米で「Specialist」を名乗ることができ、治療にあたることができます。

私は幸運なことに2009年から2年間、日本大学長期海外派遣研究員として研究留学に加えて、ニュージャージー医科歯科大学歯学部の口腔顔面痛プログラムに参加し、米国口腔顔面痛専門医を取得することができました。帰国後、臨床では口腔顔面痛治療に加え、内科的診断法を用いて口腔内科的疾患の原因を究明して、非外科的処置である薬物療法、理学療法、運動療法などの口腔内科的治療を行っています。研究においては口腔顔面痛発症メカニズムを解明するため、神経障害性疼痛モデルを使用した動物実験を遂行し、臨床研究では神経生理的手法や脳MRI計測手法を用いて慢性口腔顔面痛患者の病態評価を行っています。

また、近年の歯科医師国家試験では口腔内科学の問題が頻出されるようになってきています。このような教育的観点からも今後、本学でも口腔内科学を歯学教育体系の中に導入し、口腔内科学の講義を開始する予定です。そして、日本大学歯学部の祖である佐藤運雄先生の「医学的歯学」の教育理念を忘れることなく、さらなる飛躍を目指し、教育、研究および臨床への貢献をこれまで以上に充実、発展させてまいります。(教授 口腔内科学講座)

【略歴】

平成11年日本大学歯学部卒業。ニュージャージー医科歯科大学歯学部(客員助教)、日本大学助教、准教授を経て、令和4年4月本学教授。歯学博士。48歳。

新教授 紹介

これからの歯科界

岡田 明子



私は歯科麻酔学分野の出身であり、長年患者の全身管理の重要性を学んできました。口腔は全身の一部であり、口腔の健康と全身の健康が密接に関わっていることは既に周知のこととなっておりますが、100年も前に、創設者である佐藤運雄先生が「医歯一元

論」を提唱されたことには驚くばかりです。また、心因的要因が口腔内の不調をきたすことがあり、また口腔内の不調が心因性反応をきたすことも分かっています。口腔は身体の他の部位と比べ心因的な影響が出やすいといえます。歯科医師とは国民の口腔内の健康だけでなく、身体、精神的健康の維持、改善に貢献できる職業であり、その使命を担うべく歯学部生や歯科衛生専門学校の教育に携われることは大変光栄と感じております。

私はこの度、教授と歯科衛生専門学校校長の拝命をうけましたが、創設100年の歴史がある日本大学歯学部では初の女性教授になるとお聞きし、大変驚き恐縮いたしました。厚生労働省の調査では、全国では毎年1000人単位で女性歯科医師が増加しており、29歳以下では、歯科医師の約半数が女性で占められています。本歯学部生も約半数は女性で、真面目で優秀な学生が多い印象をうけております。また、20年近く当院の初診患者を担当してまいりましたが、問診票に「女性の歯科医師希望」と書かれていることも少なくありません。当然、男性歯科医師を希望されている患者さんがいる一方で、女性歯科医師のニーズも必ず存在します。本学部には優秀な女性歯科医師、教員がおられますが、今後、益々その割合が増えていくのは自然の流れだと感じます。

私は臨床においてはペインクリニックに従事する一方、研究では口腔顔面領域の難治性疼痛の解明に従事してきました。近年、歯が原因でない歯痛の存在が知られるようになりましたが、日々の臨床では、まだまだ原因が判明しない口腔顔面領域の疼痛に遭遇します。その疼痛の原因解明の一助になれるよう研究も続けております。今後も教育、臨床、研究に邁進し、日本大学歯学部の発展に貢献できるよう頑張りたいと思います。どうぞご指導ご鞭撻の程どうぞよろしくお願い申し上げます。

(教授 口腔内科学講座)

【略歴】

平成9年大阪大学歯学部卒業。平成16年大阪大学大学院歯学研究科修了。平成18年1月日本大学歯学部助手。平成19年4月日本大学歯学部専任講師、平成23年4月日本大学歯学部准教授。令和4年4月日本大学歯学部教授・日本大学歯学部附属歯科衛生専門学校校長。博士(歯学)51歳。

令和4年度 歯学部予算の概要

経理長 樋口 肇

令和4年度歯学部予算が、3月開催の理事会で承認されました。予算計上した特徴的な事業計画及び収支状況は以下のとおりです。

1 予算計上した特徴的な事業計画

新校舎完成に伴う移転費及び環境設備費	《継続事業》
新たな奨学金基金を創設し奨学金給付制度の充実	《継続事業》
オスロ大学との学術協定の締結	《継続事業》
「教育の質保証」の検証・向上にむけた内部保証委員会の設置	《継続事業》

2 歯学部総合予算(事業活動)の収支状況

令和4年度 歯学部総合予算	
事業活動収入合計	69億2,400万円
事業活動支出合計	77億円
基本金組入前収支差額	△7億7,600万円
基本金組入前収支比率	△11.21%

前年度予算と比較すると、収入の部では、学生生徒等納付金が1億600万円程の減収で主な要因は在籍学生数減少、衛生専門学校の一時募集停止です。補助金収入は減収ですが、法人から相当額の補填があります。

支出の部では、新校舎への移転費約3億円、及び清掃や保守管理費の増床分です。また減価償却費も8,000万円程増加しています。

新型コロナウイルスの感染終息は未だ分からない状況ですが、これに伴う財政的影響は軽減してきたかと思えます。建設に係る事業費の支出も令和4年度で終了します。

これにより大きな臨時的支出が本年度限りとなり、これからは将来の向けての資金作りが必要となります。そのためには収入を確実に確保し、少しでも冗費を削減することが重要です。

予算の執行に当たっては、その重要度や緊急度を再度検討のうえ効率的・効果的に執行するようお願いいたします。

ようやく新校舎・新病院が完成しました。教育・研究及び診療の拠点とし活用され、次世代の発展に繋がることと思えます。

令和3年度 第1回FD講習会

～アクティブラーニングとは～

FD委員会委員長 篠田 雅路

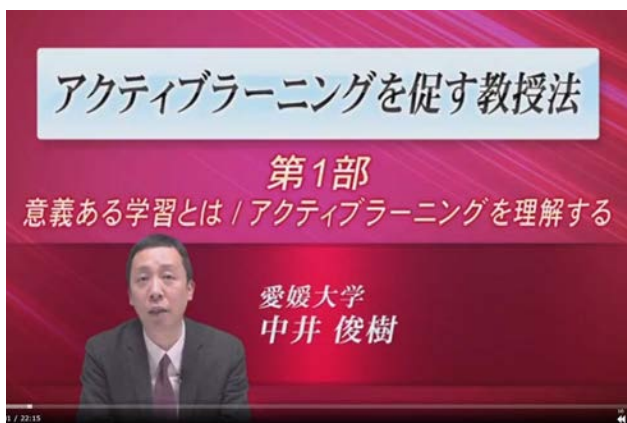
現在の歯学部では、教員から提供される知識を批判的に吟味することなくひたすら暗記し、試験に臨むという学生が多いのではないのでしょうか？このような学修方法では、記憶した知識の大半を短期間で忘却するだけでなく、知識の応用力を問われる昨今の歯科医師国家試験に全く対応できません。したがって本学では、従前の教員による一方向的な講義形式の教育とは異なる学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法（アクティブラーニング）の導入が検討されています。

アクティブラーニングとは、「学生にある物事を行わせ、行っている物事について考えさせること」と定義されています。本年度の歯学部 FD 講習会として、教職員全員にアクティブラーニングについて理解していただくことを目的に、JPF 実践的FDプログラム・オンデマンド講義研修会の内容から、「アクティブラーニングを促す教授法；中井俊樹先生（愛媛大学）」を視聴していただきました。

本FD 講習会では、まず魅力的な学修課題の設定および学修者に対する「発問」がいかに重要であるかが理解できました。さらに、発見学習、問題解決学習や体験学習だけでなく、教室内でのグループ・ディスカッションやグループワーク等も有効なアクティブラーニングの方法であることが理解でき、今後の学生教育を改善していくうえで大変参考になりました。

現在、歯学部では新カリキュラムの策定作業が進んでおりますが、その際に教職員がアクティブラーニングの様々な手法を理解し学修方法として導入していくことは、学修効果の高い新カリキュラム策定に大きく寄与できると考えています。

(教授 生理学講座)



「日本大学学生FD CHAmmiT」に参加して

川崎 泰誠

私は、昨年11月に開催された「日本大学学生FD CHAmmiT」に歯学部の代表として参加しました。昨年度、私たちの授業は実習を除き、ほぼ全てが遠隔で実施されました。一年間の遠隔授業の中で、私が一番悩んだことは、自分の理解度の把握についてでした。対面で授業を受けていれば、おのずと周囲の仲間の様子がわかったり、雰囲気を感じることが出来たりします。それが出来なかったため、実際に自分が内容をどれくらい理解できているのかわからず、不安になることが多くありました。

CHAmmiTでは、同じ状況下で大学の講義を受けていた他学部の学生と様々な視点から意見交換することが出来ました。その中で、遠隔授業の利点や欠点、コロナ禍における自分の学習法を議論しました。多様な考

え方を知る中で一番印象に残ったことは、このコロナ禍で学習を進めていく中で感じる不安は、誰にでもあるということです。今回CHAmmiTに参加して学んだことは、コロナ禍での学習の不安には様々な要因が絡んでいるということです。例えば友人関係であったり、大学に行けないというストレスであったりと、その要因は学生によって違うということ、私達1人ひとりが認識できるようになることが非常に重要であると感じました。日常を取り戻した際にも、仲間の不安の要因をしっかりと認識できるようになることで、お互いの大学生活を支え合うことが可能になると思います。

昨年度はクラス委員として、仲間と協力しクラスの運営に携わってきました。この様な大学の企画に積極的に参加し、学んだことを運営等に役立てることで、学年全体に還元できるようにこれからも頑張っていきたいと思っています。(第2学年)



令和4年度 クラ ブ 一 覧

次号7月号にて、クラブ勧誘活動の様子を掲載予定です。

No.	ク ラ ブ 名	所 属	資 格 等	顧 問 名
1	アイスホッケー部	歯科放射線	准 教 授	松 本 邦 史
2	アメリカンフットボール部	補 綴 I	専 任 講 師	池 田 貴 之
3	合 気 道 部	摂食機能療法	教 授	植 田 耕 一 郎
4	空 手 道 部	衛 生	准 教 授	田 中 秀 樹
5	剣 道 部	解 剖 II	教 授	磯 川 桂 太 郎
6	硬 式 庭 球 部	補 綴 II	専 任 講 師	大 山 哲 生
7	硬 式 野 球 部	口 外 II	准 教 授	清 水 治
8	ゴ ル フ 部	補 綴 I	専 任 講 師	伊 藤 智 加
9	サ ー フ ィ ン 部	口 外 I	教 授	外 木 守 雄
10	サ ッ カ ー 部	保 存 III	教 授	佐 藤 秀 一
11	自 動 車 部	歯 科 矯 正	教 授	本 吉 満
12	柔 道 部	病 理	教 授	浅 野 正 岳
13	水 泳 部	生 化	教 授	鈴 木 直 人
14	ス キ ー 部	総 合 歯 科	准 教 授	紙 本 篤
15	ソ フ ト テ ニ ス 部	化 学	教 授	中 野 善 夫
16	卓 球 部	感 染 症 免 疫	教 授	今 井 健 一
17	日 本 拳 法 部	保 存 II	教 授	林 誠
18	バ ス ケ ッ ト ボ ー ル 部	保 存 III	准 教 授	菅 野 直 之
19	バ ド ミ ン ト ン 部	物 理	教 授	山 岡 大
20	バ レ ー ボ ー ル 部	法 医	専 任 講 師	堤 博 文
21	ボ ウ リ ン グ 部	健 康 科 学	准 教 授	佐 藤 紀 子
22	ヨ ッ ト 部	保 存 I	教 授	宮 崎 真 至
23	洋 弓 部	法 医	准 教 授	近 藤 真 啓
24	ラ グ ビ ー 部	生 化	准 教 授	津 田 啓 方
25	陸 上 競 技 部	保 存 I	准 教 授	陸 田 明 智
1	奇 術 部	補 綴 III	教 授	小 峰 太
2	軽 音 楽 部	生 理	教 授	篠 田 雅 路
3	茶 道 部	保 存 III	准 教 授	吉 沼 直 人
4	写 真 部	解 剖 II	准 教 授	山 崎 洋 介
5	生 物 部	生 物	教 授	藤 田 智 史
6	東 洋 医 学 研 究 部	歯 科 理 工	専 任 講 師	掛 谷 昌 宏
7	美 術 部	補 綴 II	専 任 講 師	大 谷 賢 二
8	無 線 部	口 外 I	専 任 講 師	田 中 孝 佳
9	ワ ン ダ ー フ ォ ー ゲ ル 部	生 理	専 任 講 師	坪 井 美 行
10	ダ ン ス 同 好 会	化 学	専 任 講 師	渡 辺 孝 康

令和4年度 歯学部進学相談会

●第1回 6月19日(日) 10時

オンライン形式による進学相談会を実施します。

※実施内容、申込方法等は歯学部ホームページでお知らせします。(5月中旬予定)

※定員制で実施する予定です。

※実施方法等は変更する場合がありますので、歯学部ホームページをご確認ください。

●第2回 7月10日(日) 10時

※実施方法等は、歯学部ホームページをご確認ください。

Webオープンキャンパス

歯学部ホームページで、歯学部紹介や模擬授業の動画、バーチャル校内見学を配信しています。

専門学校進学相談会

日時：第1回 5月22日(日)

第2回 6月12日(日)

第3回 7月10日(日)

いずれも10時00分～13時00分(予約制)

場所：日本大学歯学部3号館

概要

●個別相談：本学専任教員が各種相談を承ります。

●校内見学：講義室、実習室等を見学します。

●体験実習：技工操作の一部として金属の研磨体験が出来ます。(技工専門学校のみ)

※新型コロナウイルス感染拡大の状況により変更の可能性がります。

NewsPlus α

☆令和4年4月1日より講座名称が変更になりました。

細菌学講座 から 感染症免疫学講座 へ
口腔診断学講座 から 口腔内科学講座 へ

☆令和4年度ポスト・ドクトラル・フェロー、リサーチ・アシスタント、ティーチングアシスタントが決定

PD…高橋 佑和・高橋 奈央

RA…廣瀬 健佑・廣兼 榮造

TA…高野 了己・中村 健志・星 まなみ・小林 達朗
朝山 雄之・相馬 千紘・西村 調・若松 賢吾
市川 理沙・森山 鮎子・大熊理沙子・庄司 元音
宮田 泰伎・米山 敏弘・新井 聡美・小野美紗恵
我喜屋 佑・北野 晃平・堀越 大地・若林 杏美

☆附属専門学校の校舎移動しました

令和4年4月から両専門学校の校長室をはじめ、講義室、実習室、事務室を移設いたしました。
技工専門学校の講義室は3号館、衛生専門学校の講義室は4号館へ移っておりますのでお知らせいたします。詳しくは、3号館1階専門学校事務室へお問合せください。

学 事

令和4年度上村安男・治子研究費 給付者

(所属・資格は 令和4年3月31日現在)

生理学講座	専任講師	人見 涼露
病理学講座	助教	角田麻里子
細菌学講座	教授	今井 健一

令和4年度佐藤研究費(研究) 給付者

(所属・資格は 令和4年3月31日現在)

(口腔科学系)

解剖学第I講座	准教授	二宮 禎
解剖学第II講座	准教授	山崎 洋介
生理学講座	准教授	林 良憲
生化学講座	准教授	田邊奈津子
病理学講座	教授	浅野 正岳
細菌学講座	准教授	田村 宗明
薬理学講座	助教	中谷 有香
歯科理工学講座	教授	米山 隆之
衛生学講座	助教	中井久美子
法医学講座	准教授	近藤 真啓
口腔診断学講座	准教授	岡田 明子
歯科保存学第I講座	教授	宮崎 真至
歯科保存学第II講座	助教	鈴木 裕介
歯科保存学第III講座	専任講師	蓮池 聡
歯科補綴学第I講座	助教	西尾 健介
歯科補綴学第II講座	助教	秋田 大輔
歯科補綴学第III講座	准教授	小峰 太
歯科矯正学講座	教授	本吉 満
小児歯科学講座	教授	白川 哲夫
歯科放射線学講座	助教	出澤 幸
歯科麻酔学講座	准教授	小柳 裕子
摂食機能療法学講座	准教授	阿部 仁子
口腔外科学第I講座	助教	篠塚 啓二
口腔外科学第II講座	助教	古川 明彦

(基礎科学系)

基礎自然科学分野(物理学)	助教	鈴木 秀則
基礎自然科学分野(生物学)	教授	藤田 智史
基礎自然科学分野(化学)	助教	渡辺 孝康

課程博士 (令和4年3月25日付)

Impairment of pain inhibition in patients with burning mouth syndrome
(口腔灼熱痛症候群患者における疼痛抑制系の減弱) 西原 千紗

上気道の呼吸生理学的抵抗と顎顔面形態の関連性について阿崎 宏昭

Comparison of occlusal wear of bulk-fill and conventional flowable resin composites based on simulated wear tests and SEM observations
(バルクフィルおよび従来型フロアブルレジン耐摩耗性比較—摩耗試験およびSEM観察からの検討) 氏家 真穂

三叉神経節ニューロンにおけるTRPV1およびTRPV2発現の老化による変化が口腔粘膜疼痛感受性に及ぼす影響 大音 樹

Orthodontic tooth movement causes tooth pain hypersensitivity by periodontal acidification
(歯列矯正による歯周組織の酸性化は歯痛を誘発する) 長田 彩佳

Involvement of psychological factors and the menstrual status in burning mouth syndrome
(口腔灼熱痛症候群における心理的要因と月経状態の関与) 小笹 佳奈

アジスロマイシンがMC3T3-E1細胞の骨形成機能と破骨細胞分化促進因子の発現に及ぼす影響 加藤 健悟

Dentin bond durability of a universal adhesive and two etch-and-rinse adhesive systems under different degradation conditions
(異なる劣化条件下でのユニバーサルアドヒーズとエッチ&リンスアドヒーズシステムの象牙質接着耐久性) 河津 真実

前装陶材の焼成と前装量の違いが片側型ジルコニア接着ブリッジの内面適合に及ぼす影響 木谷 仁

IL-33 causes orofacial neuropathic pain via phosphorylation of GluN2B in the trigeminal spinal subnucleus caudalis
(IL-33は三叉神経脊髄核尾側亜核のGluN2Bのリン酸化を介して神経障害性疼痛を惹き起こす) 木村 有貴

Nuclear localization status of propiece interleukin (IL)-1 α in HeLa cells
(HeLa細胞におけるpropiece IL-1 α の存在様式) 工藤 圭紘

Effects of S-PRG filler elute on oxidative stress-related oral bacterial growth and pathogenicity
(S-PRGフィラー溶出液が酸化ストレスに関連した口腔細菌の発育と病原性に及ぼす影響) 河野 由

A new method for determination of *Thy1*-GCaMP6s using two-photon microscopy in mice
(2光子励起顕微鏡を用いた新たな*Thy1*-GCaMP6s発現判定法) 小林 秀太郎

The role of pannexin 1-mediated ATP signaling in the trigeminal spinal subnucleus caudalis in tongue cancer pain
(舌癌性疼痛発症に対する三叉神経脊髄核尾側亜核におけるpannexin 1を介したATPシグナルの役割) 小山 亮

Influence of application time on dentin bond performance and surface free energy of universal adhesives in different etching modes
(異なるエッチングモードでのユニバーサルアドヒーズの塗布時間が象牙質接着性および表面自由エネルギーに及ぼす影響) 齋藤 達郎

TFAP2Eの過剰発現が歯肉癌由来株化細胞Ca9-22の増殖能と細胞周期に与える影響 酒井 嶺

プロポフォールがRAW264.7細胞における破骨細胞様細胞の形成に及ぼす影響 武田ひとみ

Simulated cuspal deflection and mechanical properties of bulk-fill and conventional flowable resin composites
(バルクフィルおよび従来型フロアブルコンポジットレジン重合時における模擬的咬頭間変位および機械的性質) 嶋谷 祐輔

Influence of surface moisture on the enamel and dentin bonding performance of universal adhesives in etch-and-rinse mode
(被着面の湿潤状態がエッチ&リンスモードでユニバーサルアドヒーズを使用した際のエナメル質および象牙質接着性に及ぼす影響) 杉村 留奈

Intratracheal administration of *Fusobacterium nucleatum* worsens elastase-induced emphysema in mice
(*Fusobacterium nucleatum*の気管内投与はマウスのエラストラーゼ誘導肺気腫を悪化させる) 鈴木 隆太

The effect of micro- and macro-porosity of a titanium mesh for guided bone regeneration
(ラット頭頂骨GBRモデルの骨増生に対するチタンメッシュミクロ透過孔とマクロ透過孔の影響) 妹尾 一輝

CAD/CAMコンポジットレジンブロックに対する表面処理の違いがレジンセメントの接着性に及ぼす影響 高橋 奈央

Porphyromonas gingivalis Mfa1 fimbria induces both IL-6 and IL-8 production by human bronchial epithelial cells via Toll-like receptor 2
(*Porphyromonas gingivalis* Mfa1線毛はToll-like receptor 2を介して気管支上皮細胞からのIL-6とIL-8産生を誘導する) 高橋 佑和

Immediate enamel bond strength of universal adhesives to intact enamel surface in different etching modes
(ユニバーサルアドヒーズのエッチングモードの違いが未切削エナメル質の初期接着性に及ぼす影響) 武田 光弘

チオヒダントイン系モノマーが歯科用貴金属合金とアクリルレジンとの接着に及ぼす影響 竹鼻 康輔

S100A4 and S100A8 are involved in the pathogenesis of periapical granulomas
(S100A4およびS100A8は歯根肉芽腫の病理発生に関与する) 田村 隆仁

周期的伸展力がRAW264.7細胞の破骨細胞様細胞への分化に与える影響 チャールストンコード 祐

終末糖化産物とLPSが骨芽細胞のPGE2産生に及ぼす影響 富田 景子

マウス歯根膜におけるLeptin receptor陽性細胞の幹細胞性とLRP1陽性細胞の役割について 中村 純基

p53ノックアウトマウスにおける骨芽細胞の増殖能と骨再生能について 永島 利通

Role of 10-MDP in the dentin bond durability of universal adhesives in etch-&-rinse mode under different degradation conditions
(エッチ&リンスモードで使用したユニバーサルアドヒーズのMDPが象牙質接着耐久性に及ぼす影響) 左 敏愛

Real-time assessment of guided bone regeneration in rat critical size mandibular bone defects in rats using collagen membranes with adjunct high and low concentration of fibroblast growth factor-2
(高濃度または低濃度fibroblast growth factor-2添加コラーゲン膜のラット下顎角臨界骨欠損に対する骨再生の経時的変化) 古畑 光昭

ジルコニアに付与した機械的維持装置が前装用コンポジットレジンとの接着強さに及ぼす影響 松島 圭佑

リン酸酸性フッ化ナトリウム溶液が白菌用CAD/CAMコンポジットレジンブロックの光沢と表面粗さに及ぼす影響 三神 航

Involvement of butyric acid in periodontal nociception in *Porphyromonas gingivalis*-induced periodontitis
(ポルフィロモナスジンジバリス誘発性歯周炎の歯周組織の侵害受容における酪酸の関与) 村上 尚希

Effects of Epstein-Barr Virus on inflammatory cytokines production in gingival fibroblasts and RANKL-induced osteoclast differentiation in RAW264.7 cells
(EBVが歯肉線維芽細胞からの炎症性サイトカイン産生とRAW264.7細胞のRANKL誘導性破骨細胞分化に及ぼす影響) 横江 将

Dual imaging plateによる高感度X線口内撮影法の基礎的評価 渡邊 憲一郎

お知らせ

歯学部行事予定

- 4月 1日(金) 第5学年登院式及びガイダンス
第2～4・6学年前期授業開始
- 2日(土) 新入生オリエンテーション
- 9日(土) クラブガイダンス
- 15日(金)・16日(土) 第1学年オリエンテーション
- 16日(土) 実験動物慰霊祭
- 5月 5日(木) 第1～6学年水曜授業
- 13日(金)・14日(土) 健康診断
- 6月 11日(土) 後援会総会
- 19日(日) 第1回歯学部進学相談会

国家試験等

= 第115回歯科医師国家試験 =

試験は1月29日(土)・30日(日)に大正大学巣鴨キャンパスで行われ、本学部の新卒の受験者は119名でした。

= 令和4年度附属歯科技工専門学校入学試験 =

歯科技工専門学校は、8月から3月に試験が行われ、志願者13名、受験者13名、合格者13名でした。

= 令和3年度歯科技工士国家試験 =

試験は2月20日(日)に行われ、本校から11名が受験しました。

= 第31回歯科衛生士国家試験 =

試験は3月6日(日)に行われ、本校から26名が受験しました。

寄付金の受け入れ

(令和4年3月31日現在)

= 研究助成金 =

- 30万円 日本大学歯学部歯科矯正学講座同門
歯科矯正学講座へ
(会長 富永 雪穂 殿) 1.28
- 15万円 株式会社モリムラ 歯科保存学第I講座へ
(代表取締役社長 森村 豪 殿) 2.24
- 50万円 クラレノリタケデンタル株式会社
歯科保存学第I講座へ
(代表取締役社長 山口 里志 殿) 3.31
- 50万円 クラレノリタケデンタル株式会社
歯科補綴学第III講座へ
(代表取締役社長 山口 里志 殿) 3.31

= 佐藤奨学・研究基金 =

- 10万円 日本大学歯学部附属歯科技工専門学校
第66期卒業生
(代表 鈴木 悠 殿) 2.1
- 10万円 日本大学歯学部附属歯科衛生専門学校
第62期卒業生
(代表 豊永 紗栄 殿) 2.8
- 50万円 日本大学歯学部後援会
(会長 横江 順 殿) 3.31

= 同窓会奨学基金 =

- 200万円 日本大学歯学部同窓会
(会長 小幡 純 殿) 3.25

= 日本大学歯学部教育研究資金 =

- 500万円 日本大学歯学部同窓会
(会長 小幡 純 殿) 3.25

= 学校への補助費として =

- 486万4千円 日本大学歯学部後援会
(会長 横江 順 殿) 3.31

= 特別寄付金 =

- 100万円 高橋 浩信 殿 2.3

編集後記

例年、4月発刊号は、新入生の皆さんへのお祝い・歓迎の言葉、前年度卒業生の学位記伝達の様子、各クラス主任・担任から学生へのメッセージなど、気持ちが新たになる内容が多いのですが、本号はこれらに加えて歯学部本館竣工の情報が加わり、いつにも増して新スタートに相応しいものになりました。張り巡らされていたフェンスが取り外された時、初めて建物内に足を踏み入れた時、様々な設備が運び込まれた時と、その度々で胸が踊る思いでしたが、真新しい講義室や図書館、ラーニングコモンズなどで学生の姿を見かけた時の嬉しさは格別でした。そして、今まで以上に充実した学生生活を送ってほしいという願いや期待が新たに膨らんでいます。依然、新型コロナウイルス感染症の流行の影響下にありますが、学生行事も再開に向けた動きが見受けられます。次号以降でその様子をお伝えするのが今から楽しみです。(T.K)

表紙の写真は菅谷佑之介先生(口腔外科学第II講座 大学院生)にご提供頂きました。

第214号 日本大学歯学部発行
東京都千代田区神田駿河台1-8-13 TEL 03 (3219) 8001